小児科

杉本 真弓先生 離任のごあいさつ

2011年9月から約1年半、アレルギー疾患を中心に診療させていただきました。食物アレルギーの経口負荷試験やアトピー性皮膚炎、気管支喘息の入院診療を中心に、そしてアレルギー専門施設が実施している耐性獲得困難な食物アレルギーに対する急速経口免疫療法といった治療にも携わることができました。

特に長期入院を必要とする急速経口免疫療法では、家族と離れた生活や誘発症状に対する不安を抱えた患者さんの診療を経験し、今まで食べられなかったケーキやアイスを治療後に美味しそうに食べて退院していく子供達の姿や、「入院前と比べるとたくましくなった」という御家族からの言葉に、大きな達成感を覚えました。

また、三重病院では多くの臨床研究が進行しており、**日常診療における疑問点から探索していくことの重要性も学ぶことができました。**三重病院のみならず、他の病院での研修の機会や学会発表の機会もたくさん与えていただき、短い期間ではありましたが、充実した日々を過ごすことができました。

4月からは地元の徳島へ戻り、三重病院での経験を活かして、地元の子供達のためにアレルギー診療を行っていく予定です。最後に、アレルギー診療のご指導をいただきました藤澤先生、長尾先生をはじめ、勤務中にお世話になりました全ての先生方、スタッフの皆様にお礼を申し上げます。

歯科・口腔外科

竹岡 高志先生 離任のごあいさつ

この度、退職することとなりました。当院歯科・口腔外科では、3年間勤務させて頂きましたが、たくさんの患者さんとの出会い、他科の先生方、歯科衛生士さん、看護師さん、売店のスタッフの方々にいつも良くして頂き深く感謝しております。

また、午後からは当院の病棟口腔ケアを行ってきましたが、微力ながら皆さんのお口の健康に携われたことを嬉しく思っています。**特に5病棟では、患者さんを通じてたくさんのことを学ばせて頂き楽しい時間を過ごせました。**この場を借りて心よりお礼申し上げます。

私にとっては、**三重病院は家族のような温かい場所です。**みなさん本当にありがとうございました。失礼とは存じますが、これで別れの挨拶とさせて頂きます。

医療安全管理室からのお知らせ 7
“リハビリでの安全対策”

最近リハビリでは、呼吸器疾患の患者さまで酸素ボンベを携帯されてリハに臨まれる方が増えてきております。病棟では酸素切れに対する対策が既に取られておりますが、リハビリ室においても平行棒内歩行時に**酸素ボンベを使わなくて済むよう、酸素配管（➡）近くに平行棒を配置替えしました。**また、トレッドミル（歩行訓練機）も酸素配管の近くに配置替えをして酸素を安全に供給しながら運動療法ができるようにしました。

また、リハビリ室のマット上の訓練からプラットホーム（ベッドに見立てた幅の広い台）に移る際、ほんの2～3メートルと思い靴のマジックテープを留めないまま歩き出し自分のマジックテープを踏んで転倒（膝を付く程度）された方が昨年はみえました。

ほんの2・3歩と思っても必ず靴のマジックテープを留めて歩くよう指導しております。

このように**転倒は日常生活のちょっとした油断が原因**となるので、**予防には細かい注意・配慮が必要**となります。

（作業療法士長　山内　邦夫）

医療福祉相談室だより

医療福祉相談室には小さな図書コーナーがあります。子どもの病気（難病・障がい・こころの病気）に関するものから、介護する側・される側、子育てのヒントになる本、話題の本などおいています。

今月のイチオシ

あたし研究～自閉症スペクトラム～小道モコの場合

小道モコ・著／クリエイツかもがわ

学校はジャングルのよう、360度予測不可の恐怖でした…著者は30歳を超えて自閉症と診断されますが、幼少期から毎日が冒険で意味がわからないまま、いろいろなことが起こり、いろいろなことに対応しなければならず、いつからか「自分の翼」を隠し、不安と孤独にみちた人生を送っていたといいます。本書では自閉症の人が、この世のどこで迷ってしまうのか、またその時の心境をわかりやすく、イラストで教えて貰うことができます。

（ソーシャルワーカー 高村 純子）